

平成23年3月28日(月)実施 外部評価結果

プログラム ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各プログラム／センターに関わる事項							
	平成22年度実績					平成23年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a～d)	e. 計画の妥当性		
栄養疫学 プログラム	4.56	4.33	4.33	4.56	4.44	4.33	9	<p>(I)各プログラム／センターに関わる事項</p> <p>【平成22年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事摂取基準設定のエビデンス作りのためのプロジェクトが効率化されるべきである、基礎的研究は他部門に移管したほうが効率化が図られると考える。</li> <li>・計画通り進行している。成果の発信については、食品の安全性確保のための基礎資料として用いられているが、やや古いデータが用いられており、せつかくのデータを速く利用可能としてほしい。</li> <li>・着実に実行されつつあり、迅速化も目標としていることは評価できる。</li> <li>・法にもとづく調査が適切に行われており、公表までの時間短縮の努力が高く評価される。他のプログラムとの共同研究がさかんである。</li> <li>・国民健康・栄養調査は集計の短縮だけでなく、調査員へのトレーニングやセミナー、ソフトの開発など質的な面での対応がなされており、評価できる。</li> <li>・今後更に高齢者が多くなることから食事摂取基準に反映できるような高齢者の調査・研究の継続を望む。</li> <li>・基礎資料として重要な国民健康栄養調査の集計7ヶ月以内報告、短縮化は評価できます。標準化、糖度管理に向けたツール、業務支援も整い優れています。</li> <li>・全項目にわたって、十分な内容と成果を引き出している。</li> <li>・集計結果が以前より早められているが、感覚としてはまだ遅いような感じがある。</li> </ul> <p>【平成23年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の水準の組織向上のいきごみあり。</li> <li>・引き続き調査・研究に期待する。</li> <li>・ビタミンAとビタミンKー食品保健機能研究部へ移管。国民健康栄養調査、食事摂取基準の2本に重点をおき、広域大災害が起きた時に、国民の健康・栄養状態はどうであったかを残していただきたいと思います。</li> <li>・まとめとして企画がすすめられている。</li> </ul>

◎各プログラム／センターの評価項目

- a: 中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
- b: 中期目標の達成に向けてプロジェクト／センターは適切に運営されているか。
- c: 中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
- d: 調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
- e: 中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

平成23年3月28日(月)実施 外部評価結果

プログラム ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	( I )各プログラム／センターに関わる事項							
	平成22年度実績					平成23年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a～d)	e. 計画の妥当性		
健康増進 プログラム	4.11	3.89	4.11	3.78	3.97	4.00	9	<p>( I )各プログラム／センターに関わる事項</p> <p>【平成22年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筋量、筋力の健康における意識に関して不明なことが多い。今後の目標設定の見直しも必要である。</li> <li>・加齢による影響研究では、高齢者は元気な人が結果的に対象となってしまうのではないかと、追跡型の調査が良いのでは。個人の遺伝的要因との関連性を解析してほしい。</li> <li>・説明の際、ポインターを使用すると、より理解しやすかった。全体のプログラムです。</li> <li>・運動ガイドラインの意義が明確となるような研究内容が努力されている。活動、代謝などについての研究テーマが精力的にとりまれている。</li> <li>・幼児から高齢者肥満や生活習慣病まで幅広い対象者の調査は評価できる。今後は、これらの調査から指導方法へも展開して欲しい。</li> <li>・サルコペニアの予防、改善指標の確立に期待します。運動ガイドラインをはじめ多岐に渡っており、その成果がどのように国民に還元できるかわかりにくく思いました。</li> <li>・順調な成果を出しているが、より新しいサルコペニア関連の成果のまとめもいれているのは興味深い。</li> <li>・立派な研究結果でぜひ研究結果をエクササイズガイド2011(予定)に反映させるようにしてもらいたい。</li> </ul> <p>【平成23年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の継続が望まれる。</li> <li>・さらなる結果が出ることを期待する。</li> <li>・高齢者の自立のための具体的な方法を示して下さい。</li> <li>・次のレベルのプログラムとして計画している。</li> </ul>

◎各プログラム／センターの評価項目

- a: 中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
- b: 中期目標の達成に向けてプロジェクト／センターは適切に運営されているか。
- c: 中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
- d: 調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
- e: 中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

平成23年3月28日(月)実施 外部評価結果

プログラム ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各プログラム／センターに関わる事項							
	平成22年度実績					平成23年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a～d)	e. 計画の妥当性		
栄養教育 プログラム	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	9	<p>(I)各プログラム／センターに関わる事項</p> <p>【平成22年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育実践の科学的根拠の明確化、食育介入・効果の検証についての研究がうまくなされていない。</li> <li>・食育は知謝教育と実践行動が大切であり、理解しても行動できない対象への対策を考慮してほしい。</li> <li>・食育に関する着実なデータが得られており、高く評価できる。</li> <li>・「食育」の守備範囲を意識した研究テーマの選択となっている。食生活に関する問題を効率的にとりあげて研究テーマとしている。</li> <li>・生活習慣病予防は、疫学プログラムと連携し、テーマをしばって取り組んでいる。</li> <li>・少ない人数で多くの調査・研究がなされており評価できる。</li> <li>・出てきた結果をどう使用するか、継続した研究を望む。</li> <li>・地道なインタビュー解析に大変興味深い内容が見られます。「朝食欠食と一人食べ」からの「共食」の提言は、施策につながることです。栄養教諭、栄養士の存在がどのように役立つか継続調査をお願いします。</li> <li>・成果として見える形になっている。</li> <li>・研究結果の図表がわかりにくかった。論文や学会発表と同様の表示方法で行ってほしい。</li> </ul> <p>【平成23年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DoHaDの充実が望まれる。</li> <li>・引き続き調査・研究に期待する。</li> <li>・在宅高齢者の食状況を把握して残存機能をどう生かすかに継続してください。</li> <li>・高齢者への尺度の開発等必要度の高い項目である。</li> </ul>

◎各プログラム／センターの評価項目

- a: 中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
- b: 中期目標の達成に向けてプロジェクト／センターは適切に運営されているか。
- c: 中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
- d: 調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
- e: 中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

平成23年3月28日(月)実施 外部評価結果

プログラム ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各プログラム／センターに関わる事項							
	平成22年度実績					平成23年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a～d)	e. 計画の妥当性		
基礎栄養 プログラム	4.22	4.11	4.22	4.00	4.14	4.22	9	<p>(I)各プログラム／センターに関わる事項</p> <p>【平成22年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の研究が散発的であり臨床応用への道が見えづらい。</li> <li>・トランス脂肪酸摂取については良くまとめられているが、高摂取群が主要であろう。</li> <li>・乳成分の機能については文献との対比で示してほしい。</li> <li>・Wet Labとしての着実な研究成果が得られている。</li> <li>・トランス脂肪酸では大きな貢献ができたことは高く評価できる。</li> <li>・トランス脂肪酸についての報告書まとめは重要分野であったといえる。</li> <li>・脂肪代謝に関する研究成果が充実している。基礎研究の重要性が説得的であった。</li> <li>・運動や食事療法による変化によって臓器での反応の違いなど、明確になりつつあり、運動や食事療法の効果のエビデンスとなり得ることは評価できる。</li> <li>・トランス脂肪酸の健康影響評価は待望のもので、日本での見解が待たれていました。それが、表示へと結びつくことは大きな成果だと思えます。</li> <li>・脂肪肝発症、脳卒中発症機序の仮説は大変興味深いものです。</li> <li>・十分な成果を得ている。</li> <li>・トランス脂肪酸に関する調査研究報告は、大変重要である。</li> </ul> <p>【平成23年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門でないので理解しきれないが、従来通りの成果の得られる計画であればそれで充分。</li> <li>・さらなる結果を期待する。</li> <li>・基礎研究の重要を改めて認識しました。乳性蛋白質の研究を深めていただきたいと思えます。</li> <li>・よい成果のもとに次のレベルのテーマが設定されている。</li> </ul>

◎各プログラム／センターの評価項目

- a: 中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
- b: 中期目標の達成に向けてプロジェクト／センターは適切に運営されているか。
- c: 中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
- d: 調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
- e: 中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

平成23年3月28日(月)実施 外部評価結果

プログラム ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各プログラム／センターに関わる事項							
	平成22年度実績					平成23年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a～d)	e. 計画の妥当性		
食品保健機能 プログラム	4.33	4.11	4.22	4.00	4.17	4.22	9	<p>(I)各プログラム／センターに関わる事項</p> <p>【平成22年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムとして期待される活動がなされている。食品分析に関する活動の強化がのぞまれる。</li> <li>・糖度管理については、より明確なアピールが必要と思われます。データ結果の適切な発表をお願いする。安全性評価では実摂取濃度との関連性が重要であろう。</li> <li>・糖度管理に向けて取り組む方向であることは、独法としての業務として重要であり、高く評価できる。</li> <li>・対象をしばって分析研究が行われている。国際的な取り組みに関与して評価される。ビタミンKについて疫学プログラムとの共同研究ができています。共同研究の設定が活発で、多くの成果が得られているといえる。</li> <li>・分析管理の取り組みは年を追うごとに成果があがっている。</li> <li>・抗酸化力については、サプリメントとして一般にも関心が高いので情報発信を正確にしてほしい。</li> <li>・食品表示基準の栄養成分の分析法の見直し、抗酸化サプリの安全性評価はサプリに頼る人に情報発信をお願いします。</li> <li>・ビタミンKの閉経女性対象の研究は興味深いことです。</li> <li>・抗酸化力等の成果をさらに一般向けに公表するとよい。</li> </ul> <p>【平成23年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・糖度管理が強く期待される。所内他部との連携研究にも期待される。</li> <li>・さらなる結果を期待する。</li> <li>・食品分析が民間委託になるとのことですが、それでいいのでしょうか。糖度管理はどのようにできるのか不安が募ります。</li> <li>・今後の必要な項目である。</li> </ul>

◎各プログラム／センターの評価項目

- a: 中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
- b: 中期目標の達成に向けてプロジェクト／センターは適切に運営されているか。
- c: 中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
- d: 調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
- e: 中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

平成23年3月28日(月)実施 外部評価結果

プログラム ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各プログラム／センターに関わる事項							
	平成22年度実績					平成23年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a～d)	e. 計画の妥当性		
情報センター	4.33	4.33	4.22	4.56	4.36	4.44	9	<p>(I)各プログラム／センターに関わる事項</p> <p>【平成22年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信の際、質の管理が重要と思われる。</li> <li>・「健康食品」情報は良く整備されている。新しい項目についても良く発信している。</li> <li>・健康食品の有効性に関わるサイトとして、きわめて重要であり、着実な情報管理と発信が適切に行われており、高く評価できる。</li> <li>・情報に関する焦点のしぼり方に工夫がみられる。調査結果を情報発信につなげていることに意義がある。臨床栄養のエビデンス提供は意義が大きい。</li> <li>・限られた人数の中で情報センターの役割が充実してきている。認知度も上がってきているので更に確実な情報発信の場となることを望む。幅広い対応があり、評価できる。</li> <li>・国民の視点に立った情報発信を行う機関として、皆の期待は大きいです。現場との連携もよろしく願います。ただ、とても専門的な内容であるため、一般人に理解されるのは難しいと思います。</li> <li>・まんべんなく良好に情報を出している。</li> <li>・情報発信はたいへん重要なので、ぜひ充実させていただきたい。災害、原発に関しても健康と栄養に関わる情報を提供してもらいたい。放医研におられた西先生と協力して。</li> </ul> <p>【平成23年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国民的的確な情報提供は重要である。これまで通りの取り組みが望まれる。</li> <li>・引き続き情報発信の場に期待する。</li> <li>・より平易な言葉、用語での発信をお願いします。動画コンテンツ拝見します。</li> <li>・継続的に行う予定となっている。</li> </ul>

◎各プログラム／センターの評価項目

- a: 中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
- b: 中期目標の達成に向けてプロジェクト／センターは適切に運営されているか。
- c: 中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
- d: 調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
- e: 中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

平成23年3月28日(月)実施 外部評価結果

プログラム ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各プログラム／センターに関わる事項							
	平成22年度実績					平成23年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a～d)	e. 計画の妥当性		
国際産学連携 センター	4.00	3.78	3.67	4.00	3.86	3.89	9	<p>(I)各プログラム／センターに関わる事項</p> <p>【平成22年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物統計プロジェクトの位置付けがよくわからない。</li> <li>・生物統計プロジェクトの成果はどのように発信しているのか、明確にすること。</li> <li>・WHOの指定研究協力センターへの申請は重要であり、評価できる。</li> <li>・研究実績の運用に関する業務は重要である。意欲的に取り組んでいるといえる。国際機関との連携も意識され、すぐれた方向性といえる。</li> <li>・アジア諸国では、栄養管理が未整備の国も多いので、それらの国の受け入れを望む。</li> <li>・国際栄養プロジェクトと生物統計プロジェクトは異なる内容ですが、やりにくいのでしょうか。</li> <li>・NR認定が第三者機関に移管するとのこと、NRの役割が評価されなかったということですね。</li> <li>・十分な成果をあげている。</li> <li>・WHOCC申請を積極的にすすめてもらいたい。</li> </ul> <p>【平成23年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NRなど、状況の変化に応じて適切な対応のとれた計画となっている。</li> <li>・引き続き調査・研究に期待する。</li> <li>・WHO研究協力センターの役割を期待しています。</li> <li>・継続的な内容として予定されている。</li> </ul>

◎各プログラム／センターの評価項目

- a: 中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。  
 b: 中期目標の達成に向けてプロジェクト／センターは適切に運営されているか。  
 c: 中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。  
 d: 調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。  
 e: 中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

平成23年3月28日(月)実施 外部評価結果

プログラム ／センター	評価項目						評価者数	コメント
	(I)各プログラム／センターに関わる事項							
	平成22年度実績					平成23年度計画		
	a. 計画の実施	b. 運営の方法	c. 目標の達成	d. 成果の発信	計(a～d)	e. 計画の妥当性		
臨床栄養 プログラム	4.50	4.38	4.75	4.75	4.59	4.75	8	<p>(I)各プログラム／センターに関わる事項</p> <p>【平成22年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・極めてレベルの高い内容の研究で、着実な成果が生み出されている。</li> <li>・栄養療法プロジェクトの成果の臨床応用を概説してほしい。</li> <li>・東京大学と連携した、強力な国際競争力のある研究が行われている。</li> <li>・メタボリックシンドローム、糖尿病に関して基礎となる研究は評価できる。日本人のメタボリックシンドローム、糖尿病の予防につなげてほしい。</li> <li>・UB2E2その他の糖尿病リスクが日本人に確認されたことに、今年も驚きました。今後の予防、治療に生かされるよう望みます。これだけの確率を持つ日本人が糖尿病を発症させないような具体的な方法を多くの方に伝えて下さい。</li> <li>・糖尿病に対する有効な成果が得られている。</li> <li>・大変Qualityの高い研究である。今後、運動や食事がこれらの遺伝的な要因と影響を与えるのか研究をすすめてもらいたい。</li> </ul> <p>【平成23年度計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さらなる結果を期待する。</li> <li>・口頭では計画説明なし。但し、報告書には継続的な研究が計画されている。</li> </ul>

◎各プログラム／センターの評価項目

- a: 中期目標の達成に向けて調査研究・業務の方向性・実施は適切か。
- b: 中期目標の達成に向けてプロジェクト／センターは適切に運営されているか。
- c: 中期目標の達成に向けて年度計画は着実に実施されているか。
- d: 調査研究・業務の成果は論文、学会発表等を通じて発表、あるいは情報発信、社会還元されているか。
- e: 中期目標の達成に向けて次年度計画は妥当適切か。

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている



平成23年3月28日(月)実施 外部評価結果  
(Ⅱ) 研究所全般にわたる事項

評価項目	評価	評価者数	コメント
① 研究所の目的、理念に合致した運営がなされているか。	4.22	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政対応で良く実行している。</li> <li>・十分に目的に合致している。</li> <li>・年々研究所の目的・理念に合致した運営となってきている。</li> <li>・人の削減が推し進められている中、研究所の使命を果たされていると思います。</li> <li>・健康と栄養に関する施策に反映できるような研究が望まれる。</li> </ul>
② 効率的な組織・予算運営がなされているか。	4.22	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不足する人員の中で良く組織立って行っている。</li> <li>・予算の割に効率的な成果となっている。</li> <li>・少ない人数で効率的に運営されている。</li> <li>・交付金の削減の流れの中、たいへん努力しておられると思いました。</li> </ul>
③ 研究成果は十分出ているか。 (学術論文、学会発表等)	4.44	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論文、発表も多く良好である。</li> <li>・人数を考えると、非常に積極的である。</li> <li>・人数に対してきわめて量質とともに良い。</li> <li>・ほぼ十分と思われる。</li> </ul>
④ 倫理規定、倫理委員会は適切に運用されているか。	3.83	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究部からの報告が詳細でないため、例年の状況を参考とした。</li> <li>・ほぼ適切と思われる。</li> <li>・この項目について説明はありませんでした。</li> <li>・説明があまりなかったが、統一的に判断しました。</li> </ul>
⑤ 研究成果の社会還元は適切になされているか。(セミナーの開催、情報提供、知的財産の活用等)	4.56	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会への貢献が大である。</li> <li>・情報発信の努力が著しい。</li> <li>・幅広い対象者に向けた対応がなされていると思われる。</li> <li>・私が外部評価委員をお引き受けしてからの変化には目を見張ります。国民の視点に立つ研究所の役割を果たしています。</li> </ul>
⑥ 他機関との連携や協力は適切になされているか。(受託・共同研究、連携大学院、国際協力、人材育成等)	4.00	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良く協力関係が保たれている。</li> <li>・連携努力が優れている。</li> <li>・適切と思われる。</li> <li>・消費者庁からの依頼に応じるなど迅速に対応されていると思います。</li> </ul>
総合的なコメント			<ul style="list-style-type: none"> <li>・機関としての存在感が十分に認められる。・食品にかかわる多様な情報が存在する中で、着実な情報発信ができており、高く評価できる。とりわけ、多くの論文データをまとめて、2次情報の発信ができている点は高く評価できる。</li> <li>・限られた条件の中できわめて優れた成果があげられていると考えられる。</li> <li>・研究所としてのタスク(疫学調査や食品分析、食品情報発信等)は必要かつ充実させていくべきであるが、その他の研究に関しては総花的にならず、臨床エビデンスの創出につながる可能性のある有望なテーマをセレクトすべきである。</li> <li>・限られた人数の中で、幅広い調査・研究がなされている。</li> <li>・現在の日本人の栄養問題に則した調査・研究となっており、年を追うごとに改善されている。</li> <li>・国民の健康・栄養の維持、向上は、日本の基盤となるものです。3/11の大震災で広域に被害が及んだ、その健康、栄養面への影響を、丁寧に調査して記録を残し、日本の発展のための、施策を提言・反映していただくことを切に願っております。</li> <li>・研究所としての目的理念に合致した運営がなされ、各研究成果、公的な公表教育がなされ、たいへん有効に活動している。</li> <li>・厳しい予算の中で良く活動がなされている。次の健康づくり施策に積極的な貢献ができるような研究調査、情報発信をお願いしたい。</li> </ul>

◎評価の基準

5:たいへん優れている 4:優れている 3:普通である 2:劣っている 1:非常に劣っている

## 独立行政法人国立健康・栄養研究所外部評価委員会委員名簿

平成22年4月現在

委員氏名	所属・職名
○五十嵐 脩	神奈川工科大学 栄養生命科学科 教授
伊藤 裕	慶應義塾大学 医学部 教授
逢坂 哲彌	早稲田大学理工学術院 ナノ理工学研究機構 機構長
加藤 則子	国立保健医療科学院 生涯保健部長
川島 由起子	聖マリアンナ医科大学病院 栄養部長
下光 輝一	東京医科大学 公衆衛生学講座 主任教授
豊田 正武	実践女子大学 生活科学部 教授
林 清	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所 所長
三保谷 智子	女子栄養大学 出版部 編集員

・敬称略、五十音順 ○:委員長